

第1回まちづくり推進町民会議を開催

まちづくりに意見要望

平成28年度第1回まちづくり推進町民会議(山崎晴一議長)が6月17日(金曜)13:30から美深町役場大会議室において開催され、委員20名と町理事者、各課長等あわせて35名が出席しました。同会議は、町内各団体や自治会からの推薦委員、公募委員の30名で構成される住民組織です。会議では、第5次総合計画(後期計画)、行政改革大綱(第4次実績・第5次計画)、まちづくりの推進について説明を行い、その後、まちづくりの推進について懇談を行いました。

会議の内容

- (1)山崎議長あいさつ
- (2)山口町長あいさつ
- (3)第5次美深町総合計画(後期計画)について -①
- (4)美深町行政改革大綱(第4次実績・第5次計画)について
 - ・美深町行政改革大綱(第4次実績)について -②
 - ・美深町行政改革大綱(第5次計画)について -③
- (5)まちづくりの推進についての懇談 -④



①第5次美深町総合計画(後期計画)について

第5次総合計画は平成23年度からスタートし、平成27年度で前期5カ年の計画期間を終了しました。

平成27年度は、後期計画の見直しとして平成28年度から平成32年度までの5カ年における全ての事業の見直しを行いました。また、終了した事業の点検や新規事業の検討も併せて実施しました。

今後、施設等の新築・改修が必要なハード事業は、総合計画と併せて美深町公共施設維持管理計画に基づき実施します。

平成28年度以降における各年度の計画事業費の総額は次のとおりです。

平成28年度計画額	3,662,810千円
平成29年度計画額	3,536,560千円
平成30年度計画額	3,486,110千円
平成31年度計画額	3,112,610千円
平成32年度計画額	4,329,560千円

②美深町行政改革大綱(第4次実績)について

第4次行政改革大綱は、平成23年度から平成27年度の6年間を計画期間とし、39の実施項目に対して、行財政改革を取り進めてきました。

主な内容としては、経常経費の削減の徹底、適切な職員定員や給与の見直し、組織機構(3課⇒5課)の見直しなどを実施しました。

③美深町行政改革大綱(第5次計画)について

第4次行政改革大綱に引き続き、平成28年度から平成32年度の5年間を計画期間とする第5次行政改革大綱を制定しました。第4次行革で達成された項目を除く27の推進項目を継続しながら、引き続き行政改革を進めていきます。

④まちづくりの推進についての懇談

<出席委員からの主な質疑・意見>

●町税の滞納額について

委員～美深町にはどれくらい町税の滞納額があるのか？

住民生活課長

町道民税、固定資産税、軽自動車税では、37件で511万円の未納額。国民健康保険税は42件で783万円の未納額。あわせて、1,295万円である。現在、この未納額について上川広域滞納整理機構で実績をあげている。

●恩根内市街地活性化事業について

委員～農業研修生宿舎に空室があるのに恩根内に4戸も住宅を建設して使用する可能性はあるか？恩根内地区は高齢化が進んでいるのに新たに建設するのはもったいない。

建設水道課長

農業研修生宿舎は短期的な宿泊施設であり長く居住する施設ではない。恩根内は居住施設である。発端は、恩根内に居住施設がなく地域計画の中で住まいを確保することで恩根内地区から流出せずに地域の方と一緒に暮らす事ができる。農業研修生宿舎と恩根内の居住施設は根本的に用途が違う。

委員～恩根内から個人的な要望はあったのか？

建設水道課長

特に個人的な要望はなかった。ただ、地域として空き家を使用するのも限界があり地域の悩みを汲んで安全性を考えてのことである。

●町の観光資源について

委員～釣りやカヌーとして天塩川は魅力がある。観光協会の調査によるとカヌー利用者は年間800人位である。景観的にも優れた場所のこの時期の工事について、着手前に役場へ報

告や相談はあったのか？

建設水道課長

年初めに連絡はある。この時期の工事に関して、草、木がなくなり景観的には悪くなるが美深全体の防災のために必要である。

委員～ワークショップなどで町の観光資源の共有が必要である。町内外の人が何を求めて美深に来ているのかという洗い出しをしてみても良いと思う。このような工事が計画された時も、そういう土地だと町としてもすり合わせをして頂けるとありがたい。

総務課長

簡単に行うのは難しいと思うが今頂いた意見を大事にしたい。

議長

開発の部長や名寄河川事務所の職員はダウン・ザ・テッシにも参加しており、カヌーの重要性は十分に認識している。冬は凍結であったり、工事がしづらい場所であり、折り合いをつけていくのが難しい。

●自然災害の被害についての対応について

委員～地震、雷、大雨等の災害によってテレビやパソコンの被雷の報告を受けているが、それに対して多角的に対応していただきたい。また、町として情報提供をしていただきたい。



④まちづくりの推進についての懇談

<出席委員からの主な質疑・意見>

総務課長

防災端末を利用して天候や災害についての情報は提供している。人命はやらなければならないが、修繕にかかる機械設備の支援までは想定できない。

委員～長期間の停電についての対応は？

総務課長

広報や復旧の目処がつく見通しなど、周知をしていかななくてはいけない。

●空き家対策について

委員～空き家対策について、名寄市では強制執行まで考えていると聞いているが、美深町では空き家対策についてどのように考えているのか？

町長

町民から取り壊してほしいなどの要望は聞いている。名寄市では強制執行の話はあるが、現実的には難しい。危険な建物は、消防、警察で対応もしている。しかし、最終的には所有者の意識になる。住宅解体の補助金を20万円（昨年度は10万円）にしたので、解体の手助けにしてほしい。町としては、環境の面も含めて図面を作って押さえている。

●今後のまちづくりの問題点について

委員～JRや交通手段の問題。今後も減便されると買い物に行けないなど不便さが出てくる。また、警察署の撤退問題など町づくりの後退にも繋がると思う。来てくれる人へどんどん呼び寄せるような物を作りながら流出対策もしていくべきである。

町長

鉄道の問題は心配であるが、現在、臨時職員で対応している。将来、農村部から町

場に出てきて共同住宅とも検討しているが、各地域に共同住宅を建設するのは難しい。足の問題は、吉野、斑溪、富岡にバスやハイヤーを走らせている。しかし、ほとんど実績がない。各個人に、自分の将来構想を考えてほしい。いろいろな制度を作るが、利用がないのは困る。地域同士の連携が取れていない。警察署の撤退問題については、名寄と合併する方向で美深署においては5～6人の減少になる。名寄署と美深署の同時立替が理想であり、場所については検討中である。実質的には5年の間に整理するとなっている。また、高校の問題ですが今年度は20人の入学者、地元生が半分である。道で秋に見直し制度があるので、相談をしていきたい。美深高校は非常に心配したが、廃校にはならない。

